

シスプラチン+アリムタ+アバスチンの治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール

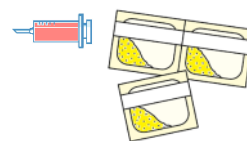
症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。

お薬の名前	1日目	2～21日目
吐き気止め	 30分	お休み
アリムタ (ペメトレキセド)	 10分	お休み
硫酸マグネシウム (腎障害予防)	 30分	お休み
シスプラチン	 2時間	お休み
マンニトール (利尿剤)	 2時間	お休み
アバスチン (ベバシズマブ)	 初回90分 2回目60分 3回目以降30分	お休み

【副作用軽減のために使用するお薬】

ビタミンB₁₂注：初回投与7日前に投与をします。

葉酸（パンビタン）：初回投与7日以上前より服用を開始します。



★起こりやすい副作用 これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

〈血液検査からわかる副作用〉

白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後10～14日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！ 白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。



血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などがおこりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

タンパク尿

尿にタンパクが出る場合があります。そのため、定期的に尿を検査し、尿の中のタンパクの有無を調べます。

腎機能障害

抗がん剤の影響で腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなると、お薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。

⇒500mLのペットボトル、2本ぐらいを目安に水分をとりましょう。

〈ご自身でわかる副作用〉

悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療時期に合った吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

倦怠感

治療開始2、3日後に症状があらわれることがあります。また、治療が継続することで徐々に出てくることもあります。症状が強い場合には、お薬で対応することがあります。

⇒無理に動こうとせず、安静にして様子を見て下さい。

下痢

1日3回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、下痢止めを服用して下さい。下痢止めを2回服用しても、よくなる場合は、病院への連絡が必要です。

⇒脱水を防ぐために、下痢または軟便の時は、水分をしっかりととりましょう。

皮疹

皮膚が赤くなったり、かゆみをともなうことがあります。症状が強く出た場合は、ぬり薬や飲み薬を使うことがあります。

末梢神経障害

治療回数が増えると徐々にしびれが出てくる場合があります。治療を終えても、しびれが回復するまで時間がかかります。

⇒日常生活に支障が出る時は、主治医に相談して下さい。

味覚障害

聴覚障害

カルボプラチンを繰り返し点滴することにより、高い音が聞き取りづらくなったり、耳鳴りすることがあります。

⇒治療前に比べ、人の話し声が聞き取りにくく感じる時は、主治医に申し出て下さい。

しゃっくり

しゃっくりがでることがあります。

⇒長く続く場合は、しゃっくりを抑えるためにお薬を使うこともあります。

出血

鼻や歯肉、膣などの粘膜から出血することがあります。また、患部から出血することもあります。10～15分たっても血が止まらない場合は病院へ連絡して下さい。

高血圧

創傷治癒遅延（傷が治りにくい）



★すぐに連絡をいただきたい副作用

- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。（間質性肺炎）
- ★「ふるえ」、「悪寒」、「38℃以上の発熱」、「肌のほてり」、「紅潮」（敗血症）

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。

●緊急連絡先●

横須賀共済病院（代表）：046-822-2710

月～金曜日の8：30～17：15は「治療を受けた診療科」
それ以外の曜日、時間帯は「急患室」にご連絡ください。